

第1学年 英語科学習指導案

福岡市立 中学校
指導者 JET
ALT

- 1 単元名 Program 5 由紀，シアトルに行く。
- 2 指導観

携帯電話やインターネット等の普及により，情報をたやすく入手でき，コミュニケーションを図る機会が増えている。携帯電話やEメールを使って人と絶えずつながっていたいという思いがある一方で，人とかかわったり，自分の意志を伝えたりするのが苦手な生徒が増えてきている。

授業においては，積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒とそうでない生徒の二極化がみられ始めている。具体的に，積極的にコミュニケーションを図ろうとしない生徒とは，英語に自信のない生徒，英語力があっても意欲のない生徒，間違いを恐れている生徒，恥ずかしさや照れがある生徒，自分の英語が笑われはしないかと不安な生徒である。基本を身につけ，英語に自信をつけさせることに加え，別の視点からも授業研究をする必要があると考える。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めるためには，その集団の人間関係がカギとなる。そこで，人間関係を育てるのに有効な手段である構成的グループエンカウンターの要素を取り入れる。友達やALTに自己を開示することに抵抗を感じず，コミュニケーションを図ることを楽しめるような英語教育活動を目指したい。

本単元は，由紀が初めて飛行機に乗って，シアトルに行く様子を取り上げている。ALTがシアトル出身で，地理や生活の様子など教科書の内容をより深めることができる。言語材料は，命令文と疑問詞 which, where を学習し，相手に依頼や要求をしたり，答えが Yes, No だけではない，より具体的な内容を尋ねたりすることができ，表現の幅の広がりが期待できる。

本学級は，男子22名，女子16名の計38名で，約7割の生徒が英語に興味をもっており，将来的に英語を話せるようになる必要性を感じている。明るく落ち着いた雰囲気であり，耳になじんでいる言葉や表現は使ってみようとする意欲がある。一方で，英語を話

すことや自分の英語を友人やALTに聞かれることに苦手意識をもっている生徒もいる。理解に乏しい生徒もあり，be動詞と一般動詞の区別や，疑問文や否定文，増えていく単語の習得に苦慮している。

6月に実施した英語に関するアンケートによると，力をつけたい，あるいは楽しいと感じるのが「聞くこと」，「話すこと」という意見が多く，授業で積極的に取り組むことができるのは，ペアやグループで取り組むコミュニケーション活動であるとの結果がでた。しかし普段から「話すこと」への苦手意識をもっている生徒も少なくない。2学期に入り，分構造が少しずつ複雑になっていく中で，コミュニケーション活動に積極的に取り組む生徒とそうでない生徒が出始めている。

指導にあたっては，話すことが苦手な生徒が，意欲的になれる教材の工夫と，グループの誰とでも活動できる授業を目指す。最初に歌を聴き，英語学習の雰囲気を作る。次に，本文中にてでくる疑問詞 What color ~? を例題を用いて導入した後，自分と相手のイメージカラーを考え，伝え合う活動（エクササイズ）を行なう。活動前に，繰り返し発音練習を行なって，自信をもって相手と会話できるようにする。また，相手のイメージと色のイメージをしっかりと考えて会話することに注意させる。友達から自分がどのようにみられているか知りたい，あるいは，友達をどう見ているか伝えたいという気持ちから会話が積極的になされるようにする。最後に，振り返り（シェアリング）を行ない，発表を通じて，表現の定着と積極的にコミュニケーションを図ることができたか考えさせる。

3 題材の目標と評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・疑問詞を用いて，積極的に会話活動に取り組んでいる。
表現の能力	・命令文や疑問詞を用いて，質問したり，書いたりすることができる。
理解の能力	・命令文・疑問詞を使った質問や要求を聞き取り，応じることができる。
言語や文化についての知識・理解	・シアトルの地理や生活を理解する。 ・命令文・疑問詞の使い方が理解できる。

4 指導計画 (7時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)	評価基準(関心・意欲, 表現, 理解, 言語・文化)		Cと判断される生徒への手だて
				A	B	
2	<p>友達と指示を出し合ったり, 場所をたずねたりしよう</p> <p>S1の基本文を理解し, それを用いた表現活動をする ・動詞を確認し, いくつかの動詞を用いて表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Simon saysを行ない, 命令文に慣れさせる。 ・命令文でよく私用される動詞を提示する 	<p>理: 聞き取りに集中し, 指示に従うことができる <様相チェック></p> <p>表: 一般動詞を用いて命令文を書くことができる。 <プリント分析></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞を正しく聞き取り, 適切に応答することができる ・基本文の構造を理解し, 即座に適切な英文を書き, 発表することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞を聞き取り, ジェスチャーなどを頼りに応答することができる ・基本文の構造を理解し, 教科書を参考にしながら適切な英文を書き, 発表することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人との助け合い学習を支援し, アドバイスを受けながら英作文ができるようにする
	<p>S1の新出単語, 教科書の本文を理解し, Q&Aに答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験を話し, 本文理解がしやすいようにする 	<p>理: 新出単語をおさえ, 本文の内容を読み取ることができる <プリント分析></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命令文と否定命令文の違いを理解して, 細かな部分まで読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや絵を参考にしながら大切な部分を読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に重要な表現を, 教科書・ノートと一緒に見ながら個別に指導する
2	<p>S2の基本文を理解し, それを用いた表現活動をする ・Which~?</p> <p>S2の新出単語, 教科書の本文内容のリスニングをして理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の疑問詞と比較させ, 文構造を理解させる ・ALTや教師の私物を使って興味・関心をひきつける 	<p>関: 他の疑問詞との違いを理解し, 意欲的に活動しようとしている <様相チェック></p> <p>表: 疑問詞を聞き取り, 適切に答えることができる <プリント分析・様相チェック></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTや友人の質問に, 正しく答えようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・Which~?の質問に対し, 適切に答えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの話す内容について分からないところは日本語で解説し, 会話の内容が理解できるように支援する
	<p>S3の基本文を理解し, それを用いた表現活動をする ・Where~?のペアワーク</p> <p>S3の新出単語, 教科書の本文をディクテーションし, 理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の疑問詞と比較させ, 文構造を理解させる ・場所を表す前置詞を理解させる 	<p>関: 必要な情報を積極的に伝えようとしている <様相チェック></p> <p>言: 場所を表す前置詞について理解できる <プリント分析></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Where~?の質問に対し, 前置詞を使って正しく答えようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所を表す前置詞を理解し, 区別して使うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所を表す前置詞を絵や図で表し, 理解しやすくする
本時 1	<p>S3の本文の表現を使って, 表現活動をする ・What color~?を使って互いのイメージカラーを伝え合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の疑問詞と比較させ, 文構造を理解させる ・互いのイメージカラーをしっかりと考えさせる 	<p>関: コミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる <様相チェック></p> <p>表: 正しい英語を使って, 会話することができる <発言チェック・プリント分析></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のイメージカラーを考え, 伝え合おうと活動に意欲的に取り組もうとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・時々英文を見ながら伝え合うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人との助け合い学習を支援し, アドバイスを受けながら活動ができるようにする

5 本時 平成 20 年 10 月 23 日 (木曜日) 第 5 校時 場所 1 年 組 教室

(1) 本時の主眼

- ・ 疑問文を用いて、尋ねたり、答えたりして意欲的に活動に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、疑問詞 which, where を学んでいる。また program5-3 の本文中で、シアトル・タコマ国際空港の駐車場で、由紀がおばさんの車を探す場面で、疑問詞 What color is it ? を学んでいる。

本時では、疑問詞 What color~?を用いて、自分と友達のイメージカラーを伝え合う活動に意欲的に取り組むことをねらいとする。絵や写真を使って導入を行う。次に、What color~?とその答え方の発音練習をする。活動前に、口頭で反復練習を行なって、自信をもって相手と会話できるようにする。また、友達のイメージと色のイメージをしっかりと考え、伝え合いたいと思う気持ちから会話が積極的になされるようにする。最後に、発表を行ない、表現の定着と積極的にコミュニケーションを図ることができたか考えさせる。

(3) 準備 絵・写真 ワークシート CD CDプレイヤー

6 過程

学習活動・内容	資料 用具	指導上の留意点	形態 一斉	配時	評価規準 (評価の方法)	評価基準		Cと判断される 生徒への手だて
						A	B	
1 あいさつ		・ 天気などについてたずねる	一斉	2				
2 warm-up ・ 歌「Saturday Night」		・ 歌詞を見ながら歌を聴く ・ 英語学習の雰囲気をつくる	一斉 個人	5				
3 What color~?の導入		・ 絵や写真で生徒の関心を引きつけながら、例題を用いて、表現の導入をする	一斉	7				
4 本時のめあての確認 自分や友達のイメージカラーを伝え合おう			一斉	2				
5 What color~?の練習 ・ 口頭練習する ・ 色と性格の英単語を確認する ・ デモンストレーションする		・ 自分のイメージカラーを決めさせる ・ 活動で使う単語と表現の発音練習をする ・ A L T と分かりやすくデモンストレーションする	個人 一斉	13				
6 コミュニケーション活動 ・ 活動の手順を説明する ・ 色と理由を伝え合う		・ 机間巡視し、個別の指導をする ・ 上手くできていないところには支援する	グループ	10	関：コミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる	・ 相手のイメージカラーを考え、伝え合おうと活動に意欲的に取り組もうとしている		・ 友人との助け合い学習を支援し、アドバイスを受けながら活動ができるようにする
7 本時のまとめと発表 ・ A L T を相手に発表する ・ 自己評価を記入する		・ 活動後に再度自分のイメージカラーを考えさせる ・ A L T の質問に答えて、発表する	一斉 個人	10	< 様相チェック > 表：正しい英語を使って、会話することができる < 発言チェック・プリント分析 >	・ 英文を見ずに、相手の顔を見て即座に伝え合うことができる	・ 時々英文を見ながら伝え合うことができる	
8 次時の予告とあいさつ				1				